

JUKE
ANNUAL REPORT
2014 - 2015



JUKEとは？

日本では、多くの就活生が大学3年生の後半から突発的にキャリアを考え始め、そのために入社後のミスマッチなどが生じています。私たちJUKEは、進路選択（進学・就職など）を迫られる前の早い段階で、自らの「目標や価値観」を見つめるきっかけを提供しています。

VISION

誰もが、あたり前にキャリアについて考え続けることが出来る世界

MISSION

- 1 | キャリア形成に必要な「良質な問いと対話の機会」を創出する。
- 2 | 世の中に、ひとりでも多くの“カタライザー”を増やす。
- 3 | 「認識⇄選択」のサイクルを通じて、“Self-Vision”を持ち続けることが出来るよう支援する。



JUKE創設の想い

2008年にJUKEを立ち上げた当時、私の周りには就職活動を通じて初めて自分のキャリア観と向き合い、明確な答えを導き出せぬまま、とりあえず内定をもらった企業に就職していく学生が少なくありませんでした。「思っていた仕事と違って」「いまの仕事が続けるかどうか悩んでいる」など、入社後すぐに理想とリアルのギャップに悩んでいる友人たちとの会話から問題意識を持つようになり、最初はカフェで後輩の学生たちのキャリア相談にのるようなところから、活動を始めました。

草の根的に活動を行う中で、「自分には、もっと何か出来ることがあるのではないか?」という想いが日に日に募り、周囲に夢や自分のビジョンを語り続けていると、少しずつ支援してくれる仲間が増えていきました。立ち上げから2年後の2010年には、早稲田大学のキャリアセンターと共同で、1・2年生30名を対象にしたジョブシャドウイング(JS)を実施するまでに活動が大きくなっていきました。法人格を取得し、正式にNPO法人JUKEとしての活動をスタートさせたのも、この頃です。

JUKEの創設当初は、戦略コンサルの仕事との両立で挫折しそうになったり、組織が空中分解しかけたりと、多くの困難に直面しました。正直、やめたほうが良いのかも悩んだことは、一度や二度ではありません。

でも、「自分が諦めないことで、少しでも救われる人がいる。」という使命感を持って全力で駆け抜けていくことで、少しずつ組織・事業を成長させていくことができました。今でも、当時の自分を支えてくれたメンバーには、感謝の気持ちで一杯です。またなにより、JUKEで活動する仲間達と、家族のように夢や将来のキャリアについて語り合う時間は、当時の僕にとって本当にかげがえのない時間でした。



ファウンダー
佐藤 優介

2012年、私は運営の一線からは退き、JUKEを別のカタチで応援する立場になりました。これは私自身が、JUKEのリーダーとしての経験を通じて大きく成長させてもらったので、この機会・体験を他の人に譲りたいと思ったからです。

そして、現在、JUKEは仲間たちの手によって、着実にコミュニティを広げています。「JUKEを家族のような存在にしたい。」そんな、立ち上げ当初に思い描いていたコミュニティの形に、少しずつ近づいていると感じています。

メンバーのみなさんが、「いつか自分の子供も連れてきて、キャリアについて考える機会を作ってあげたい」と思ってもらえるように。JUKEには、そんな家族のようなコミュニティであり続けて欲しいと思っています。

代表あいさつ

「将来は、こういう生き方をしたい!」。留学先のアラスカで、町の大人たちに向かって楽しそうに話す同級生たちの姿は、当時 15 歳の私に、とても大きな衝撃を与えました。「あたり前のようにキャリアを考える」ことの面白さや可能性に惹かれると同時に、もっと日本にも気軽にキャリアについて話せる雰囲気があればいいのに!と感じたことを、いまでも鮮明に覚えています。

アメリカやドイツなどの欧米諸国では、初等・中等教育の時点で極めて具体的な進路選択が求められたり、ジョブシャドウイングや長期インターンシップといった「職場での学習」が一般的であったりと、定常的にキャリアについて考え、選択することがあたり前となっています。

一方、日本では、多くの人が大学 3 年生になってはじめて、自分のキャリアについて考え始めます。そして、「どこで、どんな仕事をするのか?」という極めて重要かつ困難な選択に、たった 3 ヶ月~半年で答えを出すことを求められます。こうした状況が、結果として「リアリティ・ショック」や「7・5・3」といった社会問題に繋がっていることは、想像に難くありません。

コロンビア大学教授で、心理学者のシーナ・アイエンガー女史は、「キャリアは選択の連続。選択する力が人生を切り開く。」と述べていますが、キャリアを選択する力は、何か特別なトレーニングが必要なものではなく、「私はどうしたいのか?」と、日々自らに愚直に問いかけ、他者と語り合い、小さな選択を積み重ねていくなかで磨くことができるものだと思います。

JUKE では、こうした思考と選択のトレーニングになる「ジョブシャドウイング・デイ」の普及を通じて、ひとりでも多くの学生・生徒・社会人が、あたり前にキャリアについて語り合い、考え続けることができる社会の実現を目指してきたいと思っています。皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



理事長
岡田 香

活動報告

01 聖光学院高等学校 JSプロジェクト

- 日程 事前勉強会：2014年7月19日
事前勉強会：2014年7月19日
訪問期間：2014年8月4日
～8月22日
事後報告会：2014年9月6日
- 場所 聖光学院高等学校
- 参加人数 56名



横浜市中区、聖光学院高校の高校1年生56名を対象に、企業訪問を通じて、将来の進路や働き方について考える「ジョブシャドウイング・プログラム」を実施しました。事前・事後のセミナーには20数名の社会人も参加。日常とは少し違う雰囲気の中、生徒からは「国全体に影響を与えられるようになりたい」などの思い切った意見も飛び出すなど、生徒が思い思いの将来に真剣に向き合う機会を提供することが出来ました。





02 慶應義塾大学 SFC JSプロジェクト

- 期間 事前勉強会：2014年12月6日
 訪問期間 ：2014年12月8日～12月12日
 事後報告会：2014年12月13日
- 場所 慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス
- 参加人数 7名

慶應義塾大学 SFC の大学生 7 名を対象に、「ジョブシャドウイング・プログラム」を実施しました。参加学生からは、企業訪問を通じて産業構造の理解が深まっただけでなく、事前・事後のセミナーでの社会人とのディスカッションが新鮮、といった声が聞かれました。また、「一見、自分とは関係のなさそうな業種について知ることが視野を広げ、世の中に無いものを生み出すこともできる貴重な経験になることが分かった。」といった感想もあり、学生がよりリアルに「社会で働くこと」の意味や価値に向き合い、その多様性について認識する機会となったことが伺えました。



03 未来を創る JS プロジェクト

- 期間 事前勉強会 2015年3月7日
 訪問期間 ：2015年3月9日～ 3月13日
 事後勉強会：2015年3月14日
- 場所 ソーシャルビジネスラボ
- 参加人数 7名

本企画は、初めて JUKE 単独で実施したジョブシャドウイングです。小規模ではありましたが、どの大学の学生でも参加できるジョブシャドウイングを実現することができました。参加者は、「自分がつくりたい価値はどのようなものか」に焦点を当て、それをもとに求める働き方や今後のアクションを立案。業種・職種や社会人の働き方について参加者の認識を広げることができました。



04 コミュニティ事業

女性イベント

- テーマ 「明日からの自分を描く。一歩前に踏み出す実行力」
- 期間 2014年5月24日
- 場所 ラトゥール青葉台 21Fスカイラウンジ
- 参加人数 15人

グローバルイベント

- テーマ 「あなたにとってグローバルに働く魅力とは？」
- 期間 2014年6月28日
- 場所 渋谷DHCコミュニケーションスペース
- 参加人数 13人

コミュニティ事業部では「女性の働き方ってどういうもの?」「グローバルに興味があるけどどんな働き方があるの?」など、学生の課題意識をテーマにしたイベントを行いました。イベントでは、ゲストによるパネルディスカッションや参加者同士のディスカッションを通して、さまざまな働き方があることや社会人の働く想いを理解してもらうと共に、参加学生自身の理想を実現するためのアクションの選択をサポートしました。

05 MFC 企業ゼミ

- テーマ 「プロフェッショナル・マーケティング～新たな価値を生み出す仕事の進め方とは～」
- 期間 2014年7月13日 13:00~17:00
- 場所 バレスサイドビル 2F マイナビセミナールーム
- 参加人数 マイフィーチャーキャンパス (MFC) プレミアム会員 22名

本企画では、株式会社マイナビとの協働により、同社のキャリア支援講座 My Future Campus の学生会員を対象としたパネルディスカッション、ケーススタディのプログラムを提供しました。参加学生は、マーケティングについて理解を深めただけでなく、社会人の仕事に対する思いを肌で感じ、行動を起こす必要性について学ぶことができたイベントとなりました。

社会的インパクト

JS 実施校



ジョブシャドウイングの活動に寄せて

ジョブシャドウイングを聖光学院で始めてから、今年で4年目になります。これまで、グローバルに活躍する企業から成長著しいベンチャー企業、そして病院、弁護士事務所、さらには地域に密着した活動をする企業・団体など、多様な企業・団体に合計約100人の生徒を受け入れていただきました。社会人が働く現場に少人数の生徒で訪問し、働く現場の実際の雰囲気を感じることができるジョブシャドウイングは、普通の授業では学ぶことができない、貴重な学びの場となっており、特に進路選択を考える上で非常に有意義な機会となっていると感じています。この活動のさらなる普及・発展を祈念しております。

聖光学院中学校・高等学校 工藤 誠一

生徒の声

「仕事に対する考え方が変わった」

以前までは働くことが辛く大変なものだと思っていたが、今回見学をし、誇りをもって熱心に取り組むことが「働くこと」であり、一生を通じてやりがいを感じられるのが「仕事」だと思った。

働くことは自分の人生をよくする手段だと思っていたが、働くということは自分の人生に直結している、つまりは人生そのものなんだなと思った。

「リアルな仕事を知ることができた」

社員さんの働く姿を間近、ほんの30センチの距離で見たことで、働くということをリアルに感じる事ができた。

自分が好きなことで働いている人の楽しそうな表情がよくみえた。働くことは楽しいことなんだと思った。

働くとは机の前に向かって黙々と作業するイメージが強かったが、実際はもっと他の人と話し、活気があるものだった。

JS 参画の意義

JS 受入れ先企業

ジョブシャドウイング（以下、JS）の活動は学生を受入れてくださる企業様、団体様のご支援により支えられています。今回は受入企業としてご支援くださる株式会社アビタス /Abitus 様の毛利 弘道様に、受入企業の担当者として感じられたご感想などを伺いました。



- JS 訪問当日の御社内の様子はどのようなものでしょうか。

JS 当日は 1 日学生さん達が弊社内を見て回る間に、弊社の社員に仕事内容を説明するようお願いする場面もあるわけですが、これが社員ひとりひとりの全社視点で考える機会にもなっていると感ずることがあります。また訪問後には学生さんからお礼メールをいただきますが、中には「社長を中心に皆で会社を良い方向にしようとしていることが伝わってきて、理想的な会社だと思いました!」といった嬉しいコメントを頂いたこともありました。これらの学生から受ける刺激は逆に社員の会社に対する自信にもなりますし、日常業務では得られない『気づき』やロイヤリティの向上にも繋がっていると思います。

- 実際に JS に参加した学生を受入れてみて、どのような感想をお持ちになりましたでしょうか。

JS において学生さん達が企業を訪問するのは 1 日と短時間でありそれ自体は小さな体験かもしれませんが、『具体的に企業を見てまわる』という体験は間違いなく価値のある”種”だと思います。その種は彼らが成長する過程でいつか何かの機会に弾けて自分の将来に生きてくることもあるのではないのでしょうか。そのためには学生さんには様々なチャンスにチャレンジしてもらいたいですし、その一助として JS 受入で弊社がお役に立てることはとても嬉しいことだと考えています。

スタッフインタビュー



佐藤 匠

弁護士。法律事務所勤務を経て現在は某 IT 企業の管理本部にて企業内弁護士として活躍。JUKE には 2012 年から参加。

西 菜々子

お茶の水女子大学 生活科学部 人間生活学科 3 年生。JUKE には 2014 年 10 月より、インターンとして参加。趣味は読書。

- JUKE では現在全員がボランティアベースで活動していますが、お二人は普段は大学やご勤務先でどうお過ごしなのでしょうか。



西：平日は大学の授業とゼミ、それに週 3,4 回のアルバイトをして過ごしています。大学では生活社会科学を専攻しています。



佐藤：会社では主に契約等の権利義務に係るリーガルリスク管理、いわゆる予防法務を主なフィールドとして働いています。

- お二人とも充実したお忙しい日々をお過ごしのように見えますが、そんな中で JUKE ではどのような活動をされているのでしょうか。また業務はどのようにこなされていますか？



西：現在は 2015 年夏に行う JS(※1) のオペレーション管理等の担当をしています。JUKE での仕事は期日がしっかりあるので適度な緊張感をもって空いた時間を活用しています。



佐藤：JUKE では事業部や事務局からの質問に回答したり、法務書類のレビューをしています。世間一般で言うところのプロボノというやつでしょうか。個人的には仕事モードの平日夜にこなすことが多いですね。

- お二人は JUKE のお仕事ではよくご一緒されるんですか？



西：JUKE の活動でご一緒したことがなかったので、ゆっくりお話をさせていただくのは今日が初めてですね。ところで、匠さんはなぜ弁護士を目指そうと思われたんですか？



佐藤：大学生の時に自分の将来を見つめ直し、当時勉強していた法律を駆使して人の役に立てる仕事がしたいと思いました。法律職の中でも弁護士を選んだのは、小さい頃からの親友達が大きな夢に向かって努力していたので、自分も最難関を目指そうと思った

からです。西さんは将来どうですか? 社会人になるのに不安とかありますか?



西：いまは不安よりも楽しみな気持ちが大きいです。私はいま社会福祉の活動、特に政策に携わりたいと思っています。以前にモンゴルの子供の支援活動に携わった際の経験や、歳をとって元気がなくなっていく曾祖母の姿を見て、ぼんやりとですが社会福祉の現状に、人が輝きを失わずに生きるにはどうしたらよいかという課題意識を持ち始めました。最近、どこで働くか、どう働くかよりも、自分が何をしたいかを大事にして将来を考えてみようという考え方に変わってきて。それは JUCE に関わりだしてから起こった変化かもしれません。



佐藤：楽しみかぁ、素敵ですね。私も JUCE に関わることで、これからの自分のキャリアにとってヒントとなるものがあるんじゃないかと期待しています。弁護士は法律だけではなく経営の知見も必要とされますが、JUKE のようなコンパクトな組織にいると、組織のあり方そのものからの議論などに参加でき、色々と気づきがあります。

- 今後 JUKE の活動での Self-Vision があれば教えてください。



佐藤：そうですね、私は引き続き自分の本業のフィールドで適切な法人運営がされるようサポートしていきたいと思っています。



西：私は早く自分のやりたいことを実現できるような力をつけたいと思っています。これまで社会人の指示に従うだけで精一杯というステージで、正直歯がゆい思いもしましたが、学生だけで管理できるかというところも現実問題難しいとも感じていましたので。学生数が少ないので仕事量も多いのは大変ですが、ひとつひとつできることを増やしていきたいと思います。



佐藤：そこは JUKE の課題かもしれないですね。社会人と学生とでは見ているものも違うだろうし、いつも社会人が正しいとも限りませんから。とはいえ、団体として何でもかんでもやっていいわけでもないですし。やはり JUKE の活動も年々広がっている中で、事業部としてはスタッフ数をもっと多いほうがいい?



西：そうなんです! 学生スタッフの先輩方が卒業してしまったり就職活動中だったりして少ないなあというのが本音です。もっと一緒に JUKE を作ってってくれる新しい仲間が欲しいです!

※1 JS= ジョブシャドウイングのこと

団体概要

法人名 _____ 特定非営利活動法人 JUKE
(通称：NPO 法人 JUKE)

本社 _____ 東京都新宿区新宿 5 - 11 - 13
富士新宿ビル 4 階

活動内容 _____ キャリア教育の変革をもたらす活動全般

- ・ ジョブシャドウイングの実施
- ・ ロールモデル提示型のキャリアセミナー開催
- ・ 学生向けキャリアシンポジウム開催
- ・ その他の各種セミナー・研修会等の開催

コンタクト _____ info@npo-juke.com

URL _____ http://npo-juke.com

沿革

- 2008 年 4 月** 佐藤優介が任意団体として JUKE を立ち上げ
- 2009 年 7 月** 堀井貴史が活動に参画、NPO 化の検討をスタート
- 2010 年 4 月** 特定非営利活動法人の法人格を取得し
NPO 法人 JUKE となる。共同代表に佐藤優介、堀井貴史が就任
- 2010 年 8 月** 大学生を対象としたジョブシャドウイングを始める
- 2011 年 8 月** ジョブシャドウイングの早稲田大学との共催をスタート
ジョブシャドウイングの岩手大学との共催をスタート
- 2011 年 9 月** NPO プロボノフェア 2011 (NPO 法人 Living in Peace 主催) ヘブースを出展
- 2011 年 11 月** 学生向けキャリアパネルディスカッションを河合塾 ALUMNI と共催
- 2012 年 2 月** 雑誌「ソトコト」(2012 年 3 月号)に JUKE の活動内容と佐藤優介の
インタビューが掲載
- 2012 年 6 月** 共同代表に岡崎愛子、小泉正剛が就任
学生向けキャリアパネルディスカッションを AIESEC と共催
高校生を対象としたジョブシャドウイングを始める
- 2012 年 8 月** ジョブシャドウイングの聖光学院高校との共催をスタート
- 2013 年 5 月** 学生向けキャリアシンポジウムを東洋大学と共催
- 2013 年 11 月** 株式会社マイナビ運営の“ My Future Campus ” と
学生向けキャリアセミナーを共催
- 2014 年 6 月** 新代表に岡田香が就任 (現任)
- 2014 年 7 月** 2013 年に引き続き、聖光学院高校にて高校生向けのジョブシャドウイングを実施
- 2014 年 12 月** 慶應義塾大学にて学生向けのジョブシャドウイングを実施
- 2015 年 3 月** JUKE 初となる単独ジョブシャドウイングを学生向けに実施
(未来を作るジョブシャドウイング)

ほかキャリア教育に関する諸イベント等の活動多数

財務報告

業績及び財政状態レビュー

2014年度(2015年3月期)において、JUKEは新たに岡田香を理事長としてスタートいたしました。本体制においては我々の主力事業であるジョブシャドウイングの見直しに注力いたしました。そのためジョブシャドウイング事業の実施回数や実施規模の着実な拡大により同収入は増加したものの、コミュニティイベント事業活動を抑えたことによる収入減少があったことから総収入は前年対比で減少しております。しかし業務プロセスの効率化によるコスト削減効果、及び本年度から新たに発生した寄付金収入により、純利益は前年対比で増加いたしました。

JUKEでは理事を含めた全てのスタッフ・インターンが無償ボランティアで活動していることから人件費負担はございませんが、法人運営及びジョブシャドウイング等の事業活動の推進に当たっては経費が必要となります。事業により得た利益及び頂戴した寄付金につきましては、これら諸経費として大切に使用させていただき、Vision, Missionの達成に向けた取り組みを着実に進めてまいります。

引き続きの皆様のご支援、何卒よろしくごお願い申し上げます。

JUKEの財務報告ポリシーについて

NPO法人JUKEでは、我々が目指すVisionの達成に向けて責任を持って持続可能な運営を行うため、NPO法人会計基準に準拠して財務報告の作成をしております。また、ご支援をいただく皆様に対して適正な開示に努めてまいります。

収益推移

	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
事業収入	¥ 316,560	¥ 623,000	¥ 365,667
寄付金収入	¥ 0	¥ 0	¥ 150,000
その他	¥ 132	¥ 117	¥ 98
収益合計	¥ 316,692	¥ 623,117	¥ 515,765

純利益推移

	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
当期正味財産増減額	¥ 42,266	¥ 229,458	¥ 257,312

財政状態推移

	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
資産合計	¥ 898,691	¥ 710,649	¥ 823,543
負債合計	- ¥ 1,014,827	- ¥ 597,327	- ¥ 452,909
正味財産合計	- ¥ 116,136	¥ 113,322	¥ 370,634



企画 NPO 法人 JUKE 事務局
編集 本田詩織 (広報担当)
山本修一 (財務担当)
制作 角谷亮祐 (デザイナー)

